

〔研究ノート〕

「特別活動の指導法と教育現場での取組」

石川 和之

はじめに

特別活動は、「生きる力」の育成に大きく貢献するものである。また、生徒にとって、有意義な時間にシなくてはならない。

私は、高等学校社会科教員として千葉県に奉職し、一人の教師として特別活動に携わってきた。担任、生徒会主任、生徒指導主事そして千葉県教育委員会の指導主事、最後は管理職として。その中で、特別活動の重要性を自分なりに痛感し、特別な思いを持って生徒と接してきたと考えている。

特別活動が今まで以上に重要性を増している実感している中、私は、特別活動の様子を含めて、学校の活動を文書やホームページを通じて、校内外に発信してきた。とりわけ退職するまでの10年あまり、高等学校の管理職としてこのことに力を注いできた。

ここでは、あらためて特別活動を整理するとともに、校長として勤務した最後の5年間にホームページにアップした作品のいくつかを分類して紹介したい。これらの内容を現在大学で担当している「特別活動の理解と指導」という講座で学生たちに紹介し、高等学校における特別活動の現況を説明するのに活用しているのは言うまでもない。さらに2016年度に担当した「特別活動の理解と指導」で実施した学生たちからのアンケートの結果も紹介したい。

第1節 特別活動の意義と生きる力の育成

生きる力とは、確かな学力・豊かな人間性・健康や体力等であり、これらをバランスよくはぐくむことが肝要である。これからの日本を担っていく生徒に生きる力を育むことは、教育にとって重要な使命である。

各学校は、以下のとおり、生きる力の育成に取り組んでいかねばならない。

1 生きる力の育成を学校教育目標の重要な柱とし、校内外に明確に示す。

校長をはじめ、全職員の共通理解の下、校内体制を確立させる。また、保護者・地域社会にも説明することで、連携・協力をいただく。

とりわけ、特別活動は保護者・地域社会・関係機関から、学校の姿勢や雰囲気理解に有効で協力も得やすく、その内容を学校外に発信することが肝要である。

2 思いやりのある「豊かな心」を育む。

心の教育はあらゆる教育の場で実践できる。職員一人一人が、高い意識を持って、生徒を育むことが大切である。

高等学校学習指導要領における特別活動の目標は、

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

である。

この中には、豊かな心の育成に係る文言が多く盛り込まれている。

ホームルーム・学年・学年の枠を超えた集団の活動を通して、互いの立場や意見、そして個性を尊重する態度を育成する。

心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、生徒一人一人が社会の中で、将来的に自己実現ができるようにする。

人間としての在り方生き方については、特別活動をとおしても、自己決定能力を育み、将来へのビジョンを模索し、人間がいかにならざるべきか、いかに生きるべきかについて思考させたい。そして特別活動により、生徒一人一人の心理的発達が促され、自らの個性を確認し、アイデンティティの確立の一助になることを期待している。

3 人生を拓く「確かな学力」を育む。

確かな学力とは、知識や技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等である。各学校においては、カリキュラムの点検・改善を継続的に行い、より効果的に学力の向上が図られ、生徒が楽しく、自己存在感を味わえるような質の高い授業が展開できるように努めなければならない。

言語活動は、現行学習指導要領において各教科等を貫く重要な視点である。言語活動をさらに創意工夫して発展させていく事が、次期学習指導要領のキーワードであるアクティブラーニングに結びつくと考える。

体験活動については、生徒の自主性、コミュニケーション能力、思考力を高めるために、様々な体験を通じて、考えたり、気づいたりして自分なりの自信につなげることが肝要である。体験を通じて、社会の一員として積極的に貢献できる人間を育成しなければならない。

特別活動は、確かな学力の向上にも寄与すると考える。自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力は、間違いなく、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事でも培われる。言語活動や体験活動等を踏まえ、生徒一人一人の成長を促すことが重要である。

4 活力にあふれる「健やかな体」を育む。

各学校においては、運動、食事、休養など、生徒の生活習慣を向上し、健康・体力づくりに努めなければならない。保健体育の授業の充実だけでなく、教科横断的な食育の推進、基本的生活習慣の確立等、積極的に取り組むことが不可欠である。

平成29年度学校教育指導の指針－高等学校（千葉県教育委員会）の中では、運動に親しむ資質や能力の育成と体力の向上、健康で安全な生活を主体的に実践する能力と態度の育成、食に関する指導の充実が提示されている。特別活動を通じて、とりわけホームルーム活動や学校行事の中で、上記の目標を推進することは、たいへん有効である。

5 発達段階に応じた「キャリア教育」を進める。

近年、キャリア教育の重要性が増している。若者自身の勤労観・職業観の未熟さや精神的自立の遅れ、目的意識が希薄なまま進学する若者の増加、将来に希望を持つことができない若者など、事態は深刻である。

キャリア教育は、生きる力の育成に欠かせない。一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることをとおして、キャリア発達を促していかねばならない。キャリア教育による学習意欲の向上・学習習慣の確立が期待され、すべての教育活動を通じたキャリア教育の推進が求められている。各学校で、キャリア教育を教育課程に明確に位置付け、各教科や特別活動および総合的な学習の時間等で、働く意味と楽しさが見えるキャリア教育が展開されねばならない。

とりわけ、特別活動が果たす役割は大きく、体験活動を含めて効果的なキャリア教育が行われるよう進めていかねばならない。これにより、キャリアカウンセリングの機会を確保し、一人一人のキャリア発達を支援することが肝要である。

6 教師の指導力向上を図る。

生徒にとって教師は大きな教育環境である。教師が力量を高めることにより、教育活動が円滑に進み、生きる力の育成も円滑に推進される。研修等を通じて、国や県の施策を周知し、様々なスキルの向上を図り、意識改革も図っていく。

特別活動についても共通理解の下、協力体制を確立して臨んでいくことが不可欠である。

ホームルーム活動の場合、特にホームルーム担任は、日常のホームルームの実態を十分に把握し、適切な対応が求められる。また、決して一人で抱えこまず、学年を中心に、各教師の特性や専門性を生かした協力体制の確立が重要である。さらに、保護者・地域社会・関係機関など学校外の教育力の活用も肝要である。

生徒会活動についても、ホームルーム活動同様、協力体制を確立し、適切な指導が求められる。生徒会担当の教師に丸投げするのではなく、各教師が円滑に役割分担して、生徒会本部の活動や各種委員会の活動等をサポートしていかねばならない。昨今、生徒会活動が低迷している学校が多いと感じている。生徒総会もお座なりの雰囲気が進められ、委員会活動も形式的なものになっているケースを目の当たりにしてきた。生徒一人一人も生徒会の一員であるという意識が希薄である。今こそ、教師一人一人が、高い意識を持ち生徒会活動に取り組む必要がある。生きる力の育成に大きく寄与するものなのだから。

学校行事については、より綿密な計画が求められ、教師の果たす役割も多岐にわたる。指導の対象となる生徒集団が大きいほか、他の教育活動との関連も考慮するとともに、いっそう保護者・地域社会・関係機関等との連携が求められる。ホームルーム活動や生徒会活動と同様、共通理解の下、協力体制の確立が不可欠である。

7 行動連携を推進する。

学校・家庭・地域社会・関係機関が一体となって、生徒に生きる力を育んでいかねばならない。学校外の教育力を積極的に活用していく。そのためにもネットワークを軽くし、説明責任を的確に果たし、真の意味で連携協力を推し進めねばならない。

特別活動についても、学校が丸抱えして行うのではなく、学校外の教育力を大いに活用すべきである。ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事のいずれにも、創意工夫すれば、行動連携を図れる場が数多く存在している。併せて、特別活動の状況をより多く、よりビジュアルに開示することが、学校理解につながると考える。私はこのことから、特別活動をできる限り、自分の目と足で取材し、発信し続けた。その一部は後で紹介したい。

変化が激しく、先行き不透明なこの時代、一人一人の生徒にしっかりした「生きる力」を育むことが、今まで以上に求められている。特別活動が、大きな原動力となることは言うまでもない。各学校においては、今まで以上に特別活動の意義を踏まえ、創意工夫して、生徒とともに、保護者・地域社会・関係機関とともに、特別活動を活性化していかねばならない。

同時に、特別活動の状況を様々な手法で大いにPRし、開かれた学校づくり・信頼される学校づくりに努めていくことが肝要である。

第2節 特別活動と他の教育活動の関連

高等学校の教育課程は、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動により編成されている。それぞれ目標や教育内容等は違うが、深く関連している。それぞれが相互に関連し、補完し合いながら、目標を達成することにより、全体として高等学校教育の目標を達成することができる。

特別活動で培われた知識・能力・態度等が、各教科・科目、総合的な学習の時間に良い結果をもたらすことが重要である。

ここでは、公民科学習・総合的な学習の時間・生徒指導・道徳の時間との関連について、それぞれの目標に係る文言に注目して簡単に確認したい。すでに、多くの研究がなされているが、公民科教育にも携わる者として、触れさせていただきたい。

1 公民科との関連

あらためて、高等学校学習指導要領における特別活動の目標を挙げる。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、 <u>人間としての在り方生き方</u> についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
--

次に、高等学校学習指導要領における公民科及び現代社会・倫理の目標を挙げたい。

公民科の目標

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

現代社会の目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

倫理の目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

前後の表現は異なるが、まさに「人間としての在り方生き方」についての素養を養うことに共通点を見いだせる。

「高等学校学習指導要領解説公民編」2009 文部科学省には、指導計画の作成と指導上の配慮事項の中で、

『特別活動との関連については、特別活動の目標の一つである「人間としての在り方生き方についての自覚を深め」という部分が「現代社会」の目標と共通するところであり、特別活動の目標との関連を図る必要がある。』

及び

『特別活動、とりわけ、ホームルーム活動は内容の3項目のうち「(2) 適応と成長及び健康安全」、 「(3) 学業と進路」が特に「倫理」とかかわりが深い。これらの内容の指導は、人間としての在り方生き方に関する教育において「倫理」とともに中核的役割を担っているのである。』とある。

最終的に目指すものは、「生きる力」の育成である。各学校の公民科を担当する教師は、目標に向かって様々な角度から「人間としての在り方生き方」を生徒に考えさせ、それが特別活動をはじめ、すべての教育活動で生かされることが究極の理想である。

一方で、特別活動で培われた能力・態度等が、公民科の授業にも反映されると素晴らしいと考える。

また、公民科教師は自身の知見を、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事で発揮して欲しい。そういう積極的姿勢を出せるくらい「研究と修養」に努めてもらいたい。

2 総合的な学習の時間との関連

(1) あらためて、高等学校学習指導要領における両者の目標を比較したい。

ア 特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

イ 総合的な学習の時間

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

望ましい集団活動を通して(特別活動)と横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して(総合的な学習の時間)ではアプローチの部分が違う。しかし、「生きる力」の大きな要素である主体性の育成が共通の目標となっており、「人間としての在り方生き方」(特別活動)と「自己の在り方生き方」(総合的な学習の時間)に生徒の人間的な成長を目指す両者の気概が感じとれる。特別活動で培われた豊かな人間関係を構築する力が総合的な学習の時間における問題解決能力の育成につながるし、その逆も十分に可能であり、相乗効果が期待できる。

(2) 実際教育現場では、ロングホームルームと総合的な学習の時間が2時間続きになっているケースも多く、両者が連動して、効率的に運営されている。たとえば、2時間続きでキャリア教育や修学旅行の事前・事後指導、様々な体験活動等が展開されている。

なお、高等学校学習指導要領総則には、『総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。』と明記され、特別活動と総合的な学習の時間の深い結びつきが裏付けされている。

3 生徒指導との関連

(1) 生徒指導の意義

『生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことである。各学校においては、一人一人の児童生徒の健全な育成を促し、自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていく必要がある。』

以上は、千葉県教育委員会が、「生徒指導提要」(文部科学省2010)から抜粋し、「平成29年度生徒指導の充実のために」の冒頭に提示しているものである。

(2) 特別活動の目標と生徒指導

前出の「生徒指導提要」の記述をあげたい。(抜粋)

『特別活動の目標は、小・中・高等学校ともその学習指導要領に、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団(や社会)の一員としてよ

りよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の(人間としての)生き方(在り方)についての考え(自覚)を深め、自己を生かす能力を養う。』と示されている。

特別活動の目標を実現するには生徒指導の充実が不可欠である。また、生徒指導のねらいである自己指導能力や自己実現のための態度や能力の育成は、特別活動の目標と重なる部分もある。この意味で、特別活動と生徒指導は密接な関係にあると言える。

- (3) 生徒指導の積極的意義である自己指導能力や自己実現のための態度や能力の育成は、特別活動のねらいと合致するものである。生徒指導は、教育活動全体を通じて行われるものである。とりわけ特別活動については、望ましい集団活動を通して、よりよい豊かな人間関係を築き、自主的態度を育てていく。ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事のいずれにも、自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成するという生徒指導の機能が活かされる場や機会が多い。

特別活動は、集団活動がベースとなるが、経験上、個別指導になるケースも多い。生徒の自主性・創造性を尊重しながらも、いかに有効に生徒の活動を全体的に個別的にサポートするか、教師の腕の見せ所である。

私は、一貫して「心の教育」を意識して仕事に取り組み、今日に至っている。若かりし頃、尊敬する先輩教師から「心の教育が最も積極的な生徒指導だ。」と言われたことを今でも忘れない。そして、特別活動を通じて、積極的な生徒指導ができたのではないかと考えている。

4 道徳の時間との関連

- (1) 千葉県では、高等学校においても平成25年度より道徳の時間が導入されている。ロングホームルームや総合的な学習の時間、学校行事等を一部活用して実施されている。
- (2) 『道徳教育推進のための基本的な方針(千葉県教育委員会)』2016の関連部分を提示する。

ア 千葉県における道徳教育の主題として、

千葉県では、幼児児童生徒が、人と人、人と社会、人と自然などの豊かなふれあいの中で、自分と自分を取り巻くものとの関わりやつながりを深く意識し、自他の生命を尊重し、自らの人生(『いのち』)をよりよく生きていけるよう、学習指導要領を踏まえて重点的な指導を行うこととする。

このため、「『いのち』のつながりと輝き～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～」を千葉県における道徳教育の主題として掲げ、県民一体となった取組を推進する。

イ 発達の段階に応じた取組の中で、高等学校では、

「共に輝く『いのち』」をテーマとして、自己探求を深め、自己実現を図り、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んじ、よりよい社会や国を実現しようとする態度を育てるとともに、道徳的实践力を高める。

- (3) 道徳教育は、教育活動全体を通じて行われるものである。現行中学校学習指導要領

では、道徳の目標として、以下のとおり提示している。

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

上記の内容をさらに発展させ、高等学校では、特別活動や公民科授業等で「人間としての在り方生き方」を思考・自覚・深化させていくことが肝要である。総合的な学習の時間の「自己の在り方生き方を考える」ことも見逃せない。

最後に、千葉県における道徳の時間が、各学校の弛みない創意工夫と良い教材にも恵まれ、順調に展開していることも付け加えたい。

第3節 高校教育現場での特別活動の現況

～「校長室だより」－5年間の記録～

『校長室だより』、校長として勤務した5年間は、このタイトルでホームページ等に情報を発信し続けた。とりわけ特別活動は、生徒の生き生きとした学校生活を伝えるのに、大きな効果があった。保護者による学校評価のためのアンケートでは、学校の情報提供についての満足度が、年々増加した。

学校評価の目的は、教育活動の活性化と組織的・継続的な改善に資すること、学校の説明責任を促進し、及び学校・家庭・地域の連携協力を推進することである。私は、『校長室だより』で特別活動をはじめとして、様々な情報を学校内外に発信したことで、この目的達成にある程度寄与できたと考えている。

また、生徒にとっても自分たちの活動を確認する上で、役に立っていたのではないか。ホームページ上で閲覧する生徒も多かったが、プリントアウトして、生徒昇降口等に掲示したものを楽しそうに見てくれて、私に近づき、感想等を話す生徒もかなり存在した。

私は、校内外にできる限り足を運び、生徒の活動を自分の目と耳で確認し、膨大な記録写真も残した。私が扱ったもので、多いのは、特別活動と部活動であった。

ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事について、私の作品の一部を紹介していく。この3つの構成要件の高等学校学習指導要領における目標にある「望ましい人間関係」、「集団」、「よりよい学校生活づくり」、「自主的、実践的な態度」等を踏まえつつ、生徒の活動の一端を見ていただきたい。

『校長室だより』の概要

表1「校長室だより」における特別活動の概要(本)

年 度	全 体	特別活動	割合(%)	特別活動の内訳		
				ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事
平成22年度	30	16	53	4	2	10
平成23年度	41	21	51	5	2	14
平成24年度	47	27	57	5	4	18
平成25年度	92	43	47	4	4	35
平成26年度	150	76	51	6	6	64

年々アップ数が増加し、それと比例して特別活動の本数も増えている。また、学校行事が圧倒的に多くなっている。ホームルーム活動・生徒会活動を軽視しているわけではない。しかし、どうしても学校行事の方が取材しやすく、見る人の反応も良かったのは事実である。それでは、種類別にホームページにアップしたものをお見せしたい。

なお、人物が写り込んだ写真はすべて削除して説明を掲載、文字のフォントも一部変更している事を申し上げます。

1 ホームルーム活動

校長室だより

第28号 平成24年10月4日

サツマイモ収穫祭

～今年も大豊作！ベニアズマ！～

10月4日、2学年が、サツマイモの収穫を行いました。秋晴れのもと、立派なベニアズマが、たくさん姿を見せてくれました。自然の恵みに感謝！協力してくれたすべての人々に感謝！

自然豊かな畑で、楽しんで収穫

している写真

個人情報保護のため掲載していません

畑全体はこんな感じ 千葉市ですよ

生徒のうれしそうな顔を見て、満足の私です。先生方も本当によくやってくれました。ナス・ピーマン・シシトウ・カボチャ・サツマイモ 作物づくりいいですよ！

応援してるよ！ 泉高生

★ 普通科の高校であったが、何か生徒にもものづくりの体験をさせたいと考え、サツマイモなどの野菜作りに挑戦した。LHRの時間を使い、各クラスの畑を決めて、収穫を目指した。また各クラスに「いきものがかり」と

いう責任者を決めて、リーダーシップをとらせた。

苦労はあったが、生徒と職員が協力し、近隣の農業高校の指導も受けながら何とか収穫にこぎつけた。生徒は喜んで収穫し、自宅にも持ち帰った。

校長室だより

第70号 平成26年9月11日

道徳の時間

～今年度も良い雰囲気～

9月11日，1学年が実施しました。

DVDを興味深く視聴す

る生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

グループに分かれて，

議論する生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

DVD 「守りたいもの」を視聴 担任が、それぞれ持ち味を発揮して

心の教育の大きな柱！

故郷のこと，人間としての在り方
生き方，考えるきっかけになってい
ます。生徒は，真摯に自分の考えを
発表。 **応援してるよ！ 大高生**

★ 千葉県の高校で、平成25年度から始まった「道徳の時間」。勤務校が研究指定校となり、先生方の弛みない研究と生徒の積極的な活動で、有意義な道徳の時間となった。LHRの時間を活用して、主として担任が、それぞれの持ち味を発揮して展開した。

グループワーク，発表，DVD教材の活用，千葉県教育委員会作成の道徳教材等を活用して実施し，私自身も勉強させていただいた。

2 生徒会活動

校長室だより

第45号 平成25年2月1日

予 饞 会

～心を込めた贈り物！！～

1月31日、予饞会を開催しました。
今年も盛り上がり、3年生は喜んでくれたようです。



舞台狭しと熱唱する

生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

2年生全員で作成した貼り絵

1年生全員の合唱（一部）

ステージで踊る

先生方の写真

個人情報保護のため掲載していません

職員パフォーマンス

私と若手職員の

デュエット写真

個人情報保護のため掲載していません

泉高校ならでの！！！！

この一体感，いいですね。これぞ泉高校という感じです。私も久しぶりにギターと歌の練習に励みまし

た。下手な所は，心でカバーしたつもりです。心のなごむ午後でした。

応援してるよ！ 泉高生

★ 現在，予餞会を実施している高校は，私の知っている範囲ではかなり少ない。確かに1月末，特に進学については大切な時期である。そういう中で，予餞会を実施できる学校そして生徒は幸せである。

生徒会の役員中心に，1・2年生，職員が心を込めて3年生を送る。まさに，生徒会活動であり，豊かな人間性の育成に貢献するものである。

古き良き時代の生徒会行事と言ってしまうとそれまでだが，もっと多くの高校で実施できる術はないのだろうか。

校長室だより

第26号 平成26年5月29日

い鉄対策委員会

～城見ヶ丘駅に，サルビア～

5月27日，作業をしました。

雑草を抜いて，サルビアの

苗を植え付ける生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

出来上がった花壇を見ながら

駅のホームでの集合写真

個人情報保護のため掲載していません

伸びた雑草の除去から 苗を一つ一つ丁寧に

生徒も良い経験，地道な活動を継続！

地域に根ざした様々な活動を展開中。大高生は，アクティブに取り組んでいます。**応援してるよ！ 大高生**

★ 生徒会活動である。当時の勤務校では、地元を走る「いすみ鉄道」を支援する取組を継続して行っている。生徒会役員，クラスから選出されたいすみ鉄道対策委員が中心となって参加し，定期的に複数の駅の清掃活動，花の苗を植えること，PR活動，さらにはいすみ鉄道の将来を考える会議などを実施している。同鉄道はもちろんのこと，地域社会も一緒に活動している。

生徒にとって，地域社会を考える良い機会であり，ボランティアの精神や自主的・実践的な態度を涵養する絶好の場となっている。

3 学校行事

校長室だより

第2号 平成23年4月7日

祝入学

～新しい仲間が加わりました～

4月7日，入学式を挙行了しました。

新入生の前途を祝福するかのようなおだやかな晴天に恵まれ，初々しい160名の若者が，校門をくぐりました。3年間，充実した学校生活を送り，それぞれの夢に向かって歩んでください。

合唱隊による校歌披露

バレー部・野球部
剣道部・バドミントン部
卓球部・陸上競技部
サッカー部・ソフトボール部
ゴルフ部・演劇部
美術部・茶道部
吹奏楽部・軽音楽同好会
生徒会役員 の諸君
ご苦労様でした

校歌を熱唱する

生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

校長式辞

- ・ 感謝の気持ちを忘れないで
- ・ 部活動に積極的に
- ・ 挨拶のできる人間に

泉高校も一つのチームです。
皆さんと力を合わせて、この泉の里
からも復興に向けた元気と支援の心を
発信していきましょう。

学校生活への期待と

東日本大震災の復興を祈る

校長式辞の写真

個人情報保護のため掲載していません

初々しく語る

新入生代表の写真

個人情報保護のため掲載していません

新入生代表宣誓

- ・ 新たに出会う仲間を大切に
- ・ 一つ一つの行動に責任を
- ・ 東日本大震災
ご冥福と復興に向けて日本が一つと
なり、一歩一歩進んでいくことを信じて
いる。

落ち着いた雰囲気の中で、温かさを感じる入学式でした。新入生の皆さん、今日の喜びや感激を忘れることなく、泉高生としての自覚を持って、楽しく、有意義な3年間を送ってください。
応援してるよ！ 泉高生

★ 入学式・卒業式は、学校行事の中でも節目となる重要なものである。約1ヶ月前に東日本大震災が発生し、日本全体が重苦しい雰囲気の中、この時の入学式は挙行された。私も式辞の中で、復興に向けた支援を訴え、新入生代表も被災者に対する思いやりと復興に向けた歩みを宣誓してくれた。

平成23年度は、3月の東日本大震災で始まったと言える。私は以来、始業式・終業式をはじめ、様々な行事の挨拶で、震災への思いを生徒に話し続けた。今でもその姿勢は変わっていない。

校長室だより

第90号 平成26年10月27日

修学旅行 3日目 ～各自が選んだメニューを満喫～

10月23日，快晴。自主希望研修に！

華やかな沖縄の衣装をまとった
女子生徒たち，ちょっと照れている
写真

個人情報保護のため掲載していません

ホテル前のビーチで，
ポーズを決める男子生徒たちの
写真

個人情報保護のため掲載していません

沖縄の衣装を体験

ホテル前の浜辺にて

シュノーケルやカヌーにも挑戦！ 応援してるよ！ 大高生

★ 生徒にとっては，1回だけの高校修学旅行。目標に沿った有意義で，楽しい旅をして欲しい。そういう思いで，私は教員生活で13回，修学旅行の引率をしてきた。うち5回が沖縄である。沖縄には，千葉県では当然見ることが出来ない自然・文化・風土・歴史等が生徒を待っていた。生徒は，新しい出会いを満喫しているように思えた。民泊をして，お世話になった家の方との別れの際，涙していた生徒の顔が今でも目に浮かぶ。

私自身，引率したすべての修学旅行の様々な場面が，頭に残っている。生徒だけでなく，教師にとっても思い出なのである。修学旅行は，生徒だけでなく，教師にとっても有意義なものにしなければならない。修学旅行を経て，より一層，生徒と教師に豊かな人間関係が構築され，大きな行事を特に担任としてやり遂げることで，教師自身も成長すると考える。

校長室だより

第9号 平成25年4月25日

避難訓練・降下訓練

～安全・安心な学校づくり～

4月25日、全校避難訓練、1年生は、降下訓練も実施しました。

整然かつ迅速に避難する

生徒たちの写真

個人情報保護のため掲載していません

避難訓練

真剣にまじめに

取り組んでくれました

真剣な表情で降下する生徒たち

と見守る消防署員，補助する先生

方の写真

個人情報保護のため掲載していません

降下訓練

おほめの言葉をいただきました。

講評の中で、消防署の方からおほめの言葉をいただきました。無駄口もなく、生徒は立派に訓練に臨みました。

「備えあれば憂いなし」災害に備えて、生徒・職員，心を一つに！！お疲れ様でした。

応援してるよ！ 大高生

★ 学校行事の中の健康安全に係る行事。災害や犯罪などの非常事態に際し、沈着、冷静、迅速、的確に判断して対処する能力を養い、自他の安全を確保することのできる能力を身に付けることは重要である。

また、消防署等の地域の関係団体と連携して行事を展開する事は、結びつきを深める意味からも有効である。

東日本大震災は決して他人事ではなく、自分の事として取り組まなければならない。

校長室だよ

第26号 平成24年10月1日

いずみ祭

～10時だよ！全員集合！！～

9月28日、29日の2日間、いずみ祭（文化祭）が開催されました。

今年も、生徒は元気いっぱい、様々なパフォーマンスを見せてくれました。

開会式で演奏する

吹奏楽部の諸君の写真

個人情報保護のため掲載していません

茶道部の生徒の写真

見事なお手前

個人情報保護のため掲載していません



書道部

力作の数々

私の似顔絵の写真

実は、全校生徒の顔写真を組み合わせて作成

個人情報保護のため掲載していません

テーマのように、
一つの目標に向けて、全員集合できた
文化祭でした。内容もさらに充実し、
文化的な発表も多くなりました。やれ
ばできることを、生徒も実感した。

応援してるよ！ 泉高生

★ 文化的行事の代表が、文化祭である。また、クラス参加の観点からは、ホームルーム活動であり、生徒会役員・文化委員会が中心となることから生徒会活動、もちろん学校にとっても生徒を育成し、保護者や地域社会にアピールする重要な行事である。

文化祭を通じて、生徒が創造性を発揮して、自主性・実践力を伸ばし、生徒同士、生徒と教師の豊かな人間関係が構築されるのを何度も経験した。ただのお祭り騒ぎでなく、しっかりとした理念と目標を持って、今後も各校で文化祭が実施されることを期待している。

最後の私の似顔絵だが、長い教師生活の中でもトップクラスの感動であった。私に内緒で、生徒会の役員や担当文化委員が作成してくれた。構成する一つ一つのピースには、全校生徒一人一人の笑顔が写っていた。これほどのプレゼントが他にあるだろうか。

校 長 室 だ よ り

第8号 平成24年5月31日

全校進路指導の日

～各学年、それぞれ有意義に～

5月31日は、全校進路指導の日でした。

- 1 学年：先輩の進路を知る， 恩師への手紙
- 2 学年：先輩の進路を知る，
お仕事発見ガイダンス
- 3 学年：学校ガイダンス（進学希望者）
集団面接指導（就職希望者）

3年生の面接練習
写真

個人情報保護のため掲載していません

2年生のガイダンス
受講風景の写真

個人情報保護のため掲載していません

1年生のクラス別
活動風景の写真

個人情報保護のため掲載していません

どの生徒も、真剣なまなざし！！
特に3年生は、進路への挑戦が間近に迫り、
普段は見られないほどのアクティブな姿勢。

泉高校は、1年生から計画的なキャリア教育を実施しています。学校外の力を積極的に導入して、生徒の育成を図っています。

願いは、生徒一人ひとりの希望する進路実現。道は険しいかもしれないけれど、思い切り自分を表現してほしい。

応援してるよ！ 泉高生

★ このキャリア教育は、ホームルーム活動であり、重要な学校行事でもある。学校では、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることをとおして、キャリア発達を促していかねばならない。

生徒は、こうした行事を重ねる中で、自分自身を見つめ直し、将来に向けて自分らしい生き方を模索していく。全校一斉に実施することで、生徒だけでなく、教師の意識も高まると考える。

校長室だより

第29号 平成25年7月16日

全校応援

～開幕ゲーム in マリン～

7月12日、野球部の応援に、全校で

マリフィールドに乗り込みました。
大多喜高校の心意気を県下に示す
ことができました！！

レフトスタンドに陣取った

全校生徒・職員の写真

個人情報保護のため掲載していません

試合終了後の

校歌披露の写真

個人情報保護のため掲載していません

試合も勝利

グラウンドにいる選手も，スタンドで応援する生徒・職員も心を一つにして，同じ空間と時間を過ごしました。

生徒に，先生方に，野球部に感謝！
猛暑の中，充実した一日でした。

応援してるよ！ 大高生

★ 最高のシチュエーションであった。夏の高校野球千葉県大会，開会式直後の試合，場所も当時のマリスタジアム，テレビ中継，千葉県中に注目される中での一戦。迷うことなく，全校応援を決断した。

グラウンドの選手だけでなく，全校生徒・職員・地域社会・保護者会・同窓会等，みんなの思いが一つとなり，大きな連帯感を生んだ。

忘れられない，暑い夏の日となった。

第4節 特別活動に係る学生の意識と指導の在り方

現在、大学の講師として、教職を目指す学生相手に教鞭をとっている。

「特別活動論」を展開する中で、高等学校教育現場中心に勤務してきた者として、出来るだけ学生に特別活動の現状等を伝えようと努めている。

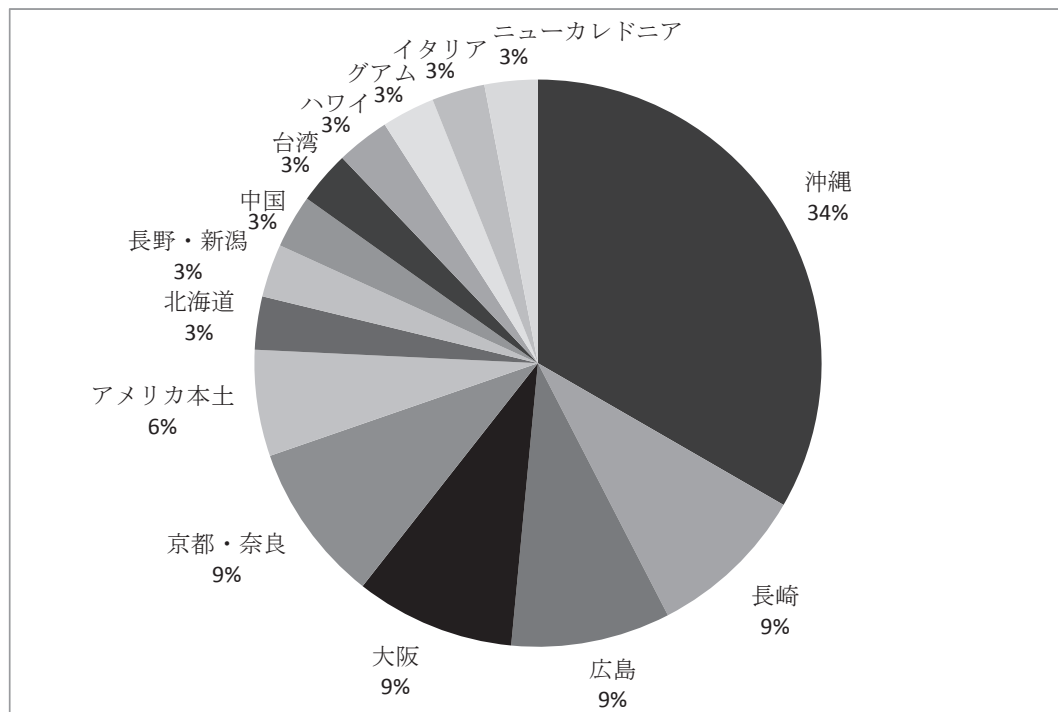
ここでは、2016年度の最終講義に実施した学生へのアンケートの結果を簡単に提示する。

学生へのアンケート

平成29年1月27日 実施 回収数 27 全4項目

- 1 教師になったとき、修学旅行で生徒をどこに連れて行きたいか。またその理由を簡潔に書きなさい。

図1



<理由> 学生の回答をそのまま提示したい。

沖縄

- ・ 平和学習に取り組ませたい
- ・ 食文化など、関東とは違う文化に触れさせたい
- ・ 関東とは違う風景を見ることができる
- ・ マリンスポーツなど、様々な遊びを楽しませたい
- ・ 自分自身、充実した楽しい沖縄修学旅行であった

- ・ 過去の悲惨な戦争を振り返り、日本の将来のことを考えさせたい

長崎・広島

- ・ 原爆について実際に学ぶ
- ・ 過去の悲惨な戦争を振り返り、日本の将来のことを考えさせたい

大阪・京都・奈良

- ・ 多くの関東圏の中学生は、一度行っている。それを踏まえて、目的を明確にし、主体的にコース設定をさせたい
- ・ 京都・奈良という古都の文化を体験させたい

海外

- ・ グローバル化の時代、とりあえず外国に行くことが大切
- ・ 中国は急速な発展を遂げ、比較的近い
- ・ イタリアは世界史でもよく扱われ、歴史的建造物も多く残っている
- ・ 自分が実際に修学旅行で行ってみて、良かった
- ・ 他国の文化や価値観・自然に触れることは大切
- ・ 英語圏に行かせたい
- ・ 自分自身も海外の文化に触れたい

北海道・長野・新潟

- ・ 北海道ならではの美味しいものを食べさせたい
- ・ スキー・スノーボードを体験させたい。上級者も初心者も生徒同士で楽しく滑り、親睦を深める

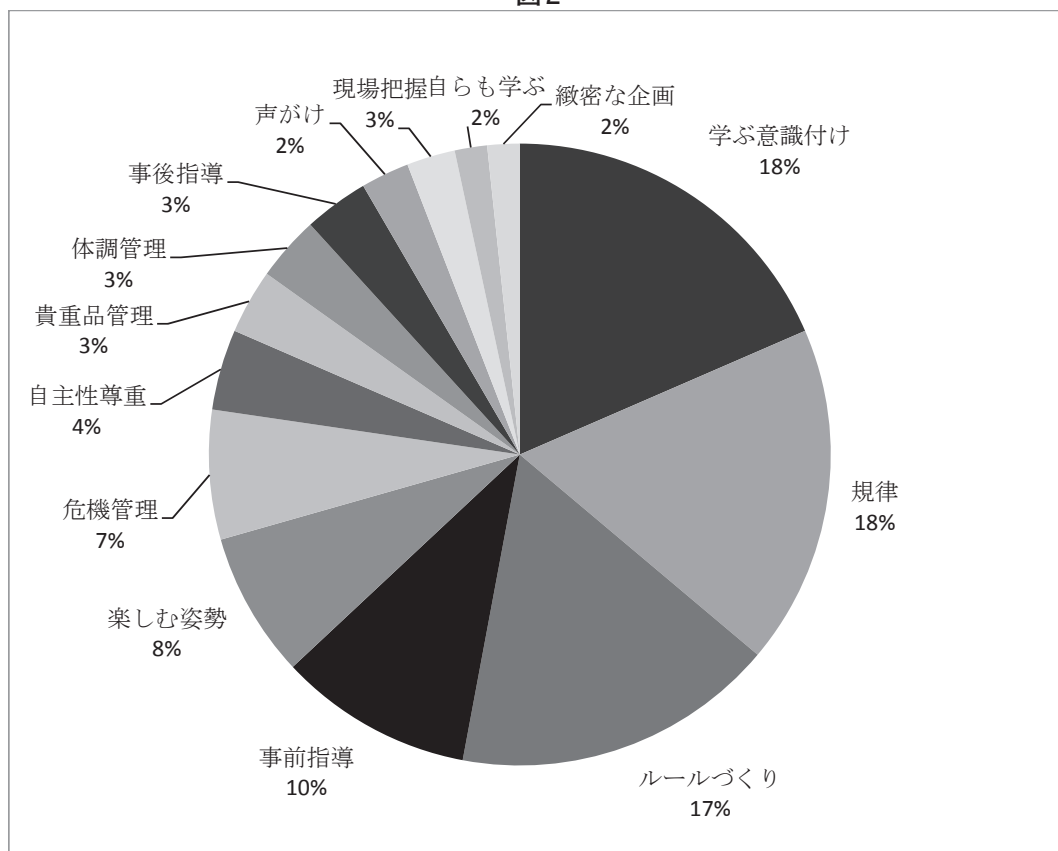
<雑感>

- ① 沖縄・広島・長崎で半数を占め、平和学習が多くの高校で定着していると考えられる。しかし、この3方面に行くだけで「平和学習」を実施したと安易に考えてはいけなない。十分な事前学習、生徒の自発的な研究、現地での活動、事後学習等、生徒と教師がよく連携して取り組まねばならない。
- ② 京都・奈良・大阪という関西の歴史と伝統がある地域への修学旅行は、根強い人気がある。中学校で一度経験している生徒がいることも事実であるが、高校教育とりわけ地歴公民科の授業を踏まえ、生徒が自ら研究し、計画を立てる事が可能である。また、限られた地域に歴史的・文化的・社会的教材が多く存在していることも大きな利点である。
- ③ 海外は、合計すると24%に及ぶ。グローバル教育が盛んに取り上げられる中、学生の中にも高校時代に海外を経験した者もいる。平和学習同様、行っただけでグローバル教育はあまりに安易である。「平和学習」と同じように、十分な準備と有意義な活動等が求められる。
また、グローバル教育には、まず身近な地域や日本の文化や伝統を知ることが大きい要素になっていることも忘れてはならない。
- ④ 千葉県でも一時期、スキー修学旅行が盛んに行われた。私自身も4回ほど引率を経験している。利点は、スキー場・宿泊施設ともに一カ所に腰を落ち着け、移動がなく集中して取り組めること、ほとんどの生徒が着実に上達し、達成感を感じられることなどが挙げられよう。一方で、寒冷地における健康管理、身体上の理由でス

キーが出来ない生徒への対応等の問題点も指摘されている。勤務した高校では、スキーが出来ない生徒は、特別に見学・体験コースを設定していた。何より、旅行・集団宿泊的行事のねらいである「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。」との整合性が求められる。

2 楽しく有意義な修学旅行ができるよう、生徒に対してどのようなアドバイスやサポートをするか。箇条書きで、5点あげなさい。

図2



<雑感>

① 講義の中で、修学旅行を取り上げ、実施上の主な留意点として、

- ・ 生徒の自主的な活動の場や機会を与えること
- ・ 決まり事の設定やその遵守
- ・ 物見遊山にならないような有意義な旅行計画立案とその実施
- ・ 事前学習及び事後学習の充実
- ・ 危機管理 等

を提示した。学ぶ意識付け・規律・ルールづくりが多くあがったのは、満足できる。

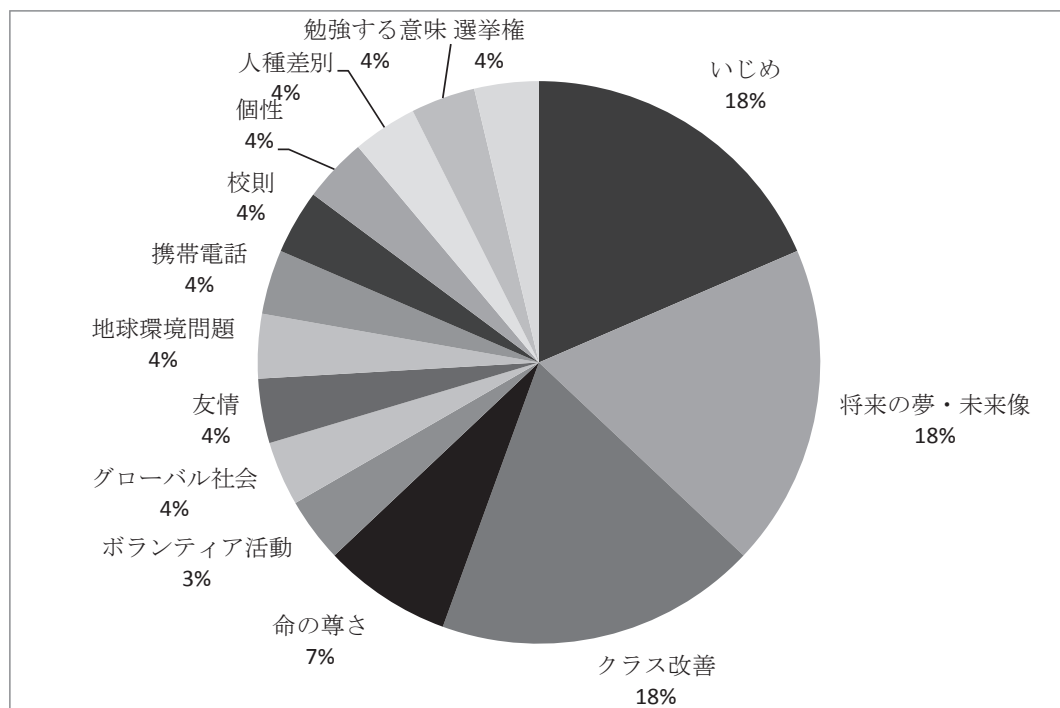
② 危機管理についても、合計すると18%に及ぶ。危機を事前に予測して未然に防ぐ

こと、不幸にも危機が発生した場合、その影響を最小限に食い止めることは、ある意味最も重要な教師の仕事である。大きな決断を要する事象から、生徒の健康管理、貴重品管理など、学生たちが実際に教師となり生徒を引率する際に、ていねいに、綿密に、冷静沈着に危機管理を成し遂げて欲しい。

- ③ 「自らも学ぶ」は、少数意見であったが、大切なことである。修学旅行を通じても、経験年数を問わず、教師が多くのことを学び、成長しなければならない。教壇を降りる日まで、いや生涯勉強なのである。

3 あなたは担任です。ホームルームで、どんなテーマで討論をさせたいですか。

図3



<雑感>

- ① 学生の個性が表れている。それぞれ問題意識を持ち、それを生徒に討論させたいという真摯な気持ちが伝わってくる。討論は1回だけではないので、様々なテーマで実施できる。昨今は、ややもすればホームルーム等での討論が低調で、生徒も話し合いの術がわからず、自らの考えを的確に述べるのが苦手となっているケースが見られる。教師になったら、討論の形態や進め方等を創意工夫して、生徒の主体性を尊重した実りある議論を展開させて欲しい。
- ② この原稿を執筆している2017年4月にも、仙台市で中学2年生の男子が、いじめを苦に自殺した。痛ましいことである。いじめは人権侵害であり、絶対に許すことは出来ない。

いじめ防止対策推進法(2013文部科学省)第15条では、学校におけるいじめの防

止として、以下の条文を提示している。

『学校の設置者及びその設置する学校は、児童等の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならない。』

ホームルーム等で、いじめに係る議論を行うことは、まさに豊かな情操・道徳心・対人交流を培うものである。ただし、十分に内容や進行方法を練り、形式的な議論に陥らぬよう教師の適切なサポートが必要であろう。アンケートでは関連項目として、「命の尊さ」、「友情」、「個性」等が挙げられている。

- ③ 「将来の夢・未来像」については、キャリア教育の観点からも有益であり、ホームルーム活動でも大いに取り上げるべきである。

現行高等学校学習指導要領では、ホームルーム活動の内容として、

「生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと」と明記し、学業と進路については、学ぶことと働くことの意義の理解・進路適性の理解と進路情報の活用・望ましい勤労観・職業観の確立・主体的な進路の選択決定と将来設計等を提示している。

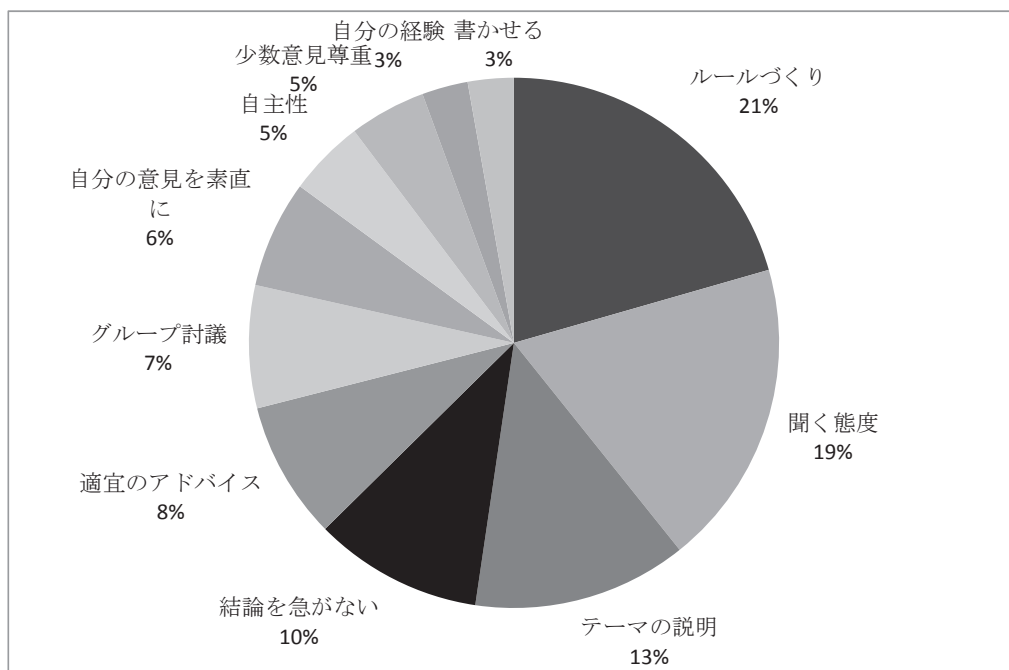
なぜ学ぶのか、なぜ働くのか、自分の性格は？長所は？特技は？夢は？人生設計は？、生徒が様々に考えるきっかけを与えられると良い。

教師（担任）の役割は重要であり、生徒一人一人の進路適性の把握、生徒への働きかけ、最新情報の提供など、なすべき事は山ほどある。

- ④ 「地球環境問題」、少数意見ではあったが、興味深い。人類が、地球規模で直面している問題である。担任が公民科教員でなくても、公民科教員と連携して討論させることは、有意義である。すでに、「現代社会」で、このテーマを学習していれば、テーマを発展させる上でもぜひ実施してもらいたい。

4 ホームルームで有意義な話し合いができるよう、どのようなアドバイスやサポートをするか。箇条書きで、5点あげなさい。

図4



<雑感>

① 「ルールづくり」は、重要である。生徒が安心して討論に取り組み、素直に意見が述べられる約束、雰囲気作りは不可欠である。教師(担任)が、ねらい、ルールを分かりやすく説明し、討論に入ることが肝要である。「テーマの説明」も併せて行うと良い。

なお、冒頭のこの種の説明を生徒が行うことも有効であろう。そのことによって、生徒も貴重な体験をし、成長出来ると考える。もちろん、教師(担任)には、説明生徒と十分な打ち合わせが必要となってくる。

「もうこの辺でいいや」という安易な終結、特定の生徒の意見のみで方向性が決まってしまうような雰囲気、少数意見の排除、何でもかんでも多数決、そして何より討論に参加しようとしめない生徒の存在等を避けるルールが必要である。

また、討論が始まってからも、教師(担任)は十分に観察し、適宜、問題提起し、良い意味で介入する事が、大切な仕事となってくる。

② 「聞く態度」、コミュニケーションの基本の一つであり、社会人として身につけておかねばならない。「言語活動」の内容の実践と大きく結びつが、とりわけ、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。」をここでは提示したい。こうして培われた資質が、次期学習指導要領におけるアクティブラーニングの実践に確実に繋がると考える。

③ 「ルールづくり」にも関連するが、討論の中に、1対1、グループワーク、全体協議を

取り入れたい。生徒が少しでも意見を述べやすい環境を設定することは大切である。

④ 「自分の経験」, どこかの場面で教師(担任)は、語って欲しい。生徒よりは長い人生経験の中で、何かしら生徒の参考になるようなものがあるのではないか。教師になるまでに、様々な経験及び研究と修養に努めるべきである。もちろん「生涯勉強」, 教師になってからも、常に視野を広くして、レベルアップを図るべきである。

⑤ 「書かせる」, 大切なことである。書くことで、自分の意見を確認したり、新たな発想へ展開したりする。

また、発表する際にも、考えをまとめる上で、有効な手立てとなる。

5 全体のまとめ

真摯に回答してくれた学生たちの今後に期待したい。

特別活動は、修学旅行とホームルームにおける討論だけではない。

しかし、アンケートの回答を読み、学生が一つ一つの特別活動に、きちんと向かい合い、誠実に対応してくれそうな感触を得た。

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』2016中央教育審議会、16. 特別活動-(2)具体的な改善事項-③学習・指導の改善充実や教育環境の充実等-ii)教材や教育環境の充実の中に、

『特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校の全ての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである。教員養成段階で、特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指導方法等の本質をしっかりと学ぶようにすることが必要である。』

と提示されている。

教職を目指す学生が、特別活動の重要性を認識し、何より真摯な姿勢で学ぶことが肝要である。そのためにも教員養成段階の充実が求められている。

文部科学省においても、「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会」が開催され、教職課程全体の質保証が検討されている。

「各事項に係るコアカリキュラム(案)」の「特別活動の指導法」では、全体目標として、『特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」、「社会参画」及び「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持ち、学年の違いによる活動の変化、各教科との往還的な関連、地域住民及び異校他校と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識並びに素養を身に付ける。』

が提示されている。

さらに一般目標として、
『特別活動の意義、目標及び内容を理解する。』
『特別活動の指導の在り方を理解する。』

の2点が提示され、付随する到達目標も4点が示されている。

教員養成段階で、教育現場における特別活動の現況をまず把握させる。そして、特別活動の意義・目標・内容を理解し、実践的な指導に係るスキルを身に付けさせる講義・実習等が不可欠であり、教職課程の指導者も常に創意工夫を図りながら、講義に臨むべきであろう。

おわりに

「高校時代の思い出は？」

この質問に対する回答は何が多いか。私自身、データを取っているわけではない。私が今聞かれたら、部活動と特別活動、そして少しだけ〇〇先生の授業を挙げると思う。同じ質問を学生にしてみると、やはり多いのは、部活動と特別活動であった。

また、ここ数年で現役の高校3年生延べ数百人と就職・進学模擬面接をする機会があったが、同様の質問の回答では、やはり圧倒的に部活動と特別活動が多かったように記憶している。ちなみに、学生も高校生も特別活動の中では、学校行事が大きな割合を占めていた。

授業が思い出という回答の比率が低いのは問題であり、残念である。教師一人一人が確かな学力の育成に向けて、創意工夫して魅力ある授業を展開しなければならない。このことについては別の機会に述べたいと考える。

さて、生徒にとって思い出となる特別活動について、高校教育現場に長く身を置いた者として述べてきた。執筆しながら、私自身も教師となってから経験した特別活動の様々な場面が蘇ってきた。教師にとっても特別活動はある意味「特別」なものなのであろう。

先日、初めて担任をした生徒たちから同窓会に招かれた。40年近く前に出会った生徒たちである。修学旅行で、朝から夕方まで一人で嵐山の渡月橋に立ち、班別行動で通過する生徒をチェックしていたこと、それ以外でも文化祭・体育祭・卒業式等の学校行事やホームルームで生徒同士、あるいは担任である私と生徒の意見が合わず議論したことなど、ほとんどの教え子があることを覚えていた。懐かしく、ちょっと照れくさい事であったが、うれしい気持ちの方が大きかった。

一方で、これらの思い出が特別活動の目標に沿ったものなのか、今してみれば不安もある。単に楽しかった、大変だったなどだけでなく、しっかり事前・事後指導はできたのか、よりよい人間関係は醸成できたのか、心身の発達と個性の伸長はどうか、自主的・実践的態度はどうか、人間としての在り方生き方についての自覚へ結びついたのか、何より私自身教師として特別活動を指導するスキルはどうだったのか。いずれにしても、目の前にいる社会人として活躍する教え子たちを見て、少しは救われたような気がした。未熟であった私を生徒たちが逆にサポートしてくれていた部分もあったらう。

2017年3月に、幼稚園、小学校、中学校の新しい学習指導要領が公示された。高等学校についても、2017年度中に公示される予定である。

これに先立ち、2016年12月に、中央教育審議会から『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』が発表された。16. 特別活動－（1）現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた特別活動の目標の在り方－③特別活動における「見方・考え方」中に、

『このような特別活動の特質を踏まえつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること』とある。

育成を目指す資質・能力の視点として、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が重要なキーワードとなってくる。集団の中で、よりよい人間関係を自主的・実践的に構築すること、集団や社会に参画し諸問題を主体的に解決すること、自己理解を深め、自ら課題を発見し改善しようとする、これまで以上に、特別活動を行う上で求められるし、学校及び教師はこのことを踏まえ、生徒の指導に臨む必要がある。

また、同答申の16. 特別活動－（2）具体的な改善事項－③学習・指導の改善充実や教育環境の充実等－ii）教材や教育環境の充実の中に、

『特別活動の充実を図るためには、「チームとしての学校」の視点で、教諭、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、司書教諭・学校司書などが、それぞれの専門性を生かしながら学校全体で取り組むとともに、学校外の専門家等の協力を得ることが重要である。』が提示されている。

教育現場では教師が問題を「ひとりで抱え込まない」というのが、鉄則である。管理職も含めた職員が、それぞれの専門性や個性を生かし、特別活動の意義や目標を共通理解しながら、より効果的に特別活動を展開しなければならない。学校としての協働体制の確立が不可欠であり、学校外の教育力の活用も積極的に行われるべきである。

新学習指導要領では、特別活動の存在意義が再確認されることとなる。今後もすべての教育現場において特別活動が有意義に展開され、ますます生きる力の育成に貢献することを切望する。そして、生徒のみならず、教師も特別活動の指導を通して成長することを祈念したい。

【文献一覧】

『特別活動論』 監修 田中智志・橋本美保

編著 犬塚文雄 2013 一藝社

『最新特別活動の研究』 著者 関川悦雄 2013 啓明出版

文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』

2009 海文堂出版

文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』

2010 教育出版

『平成29年度学校教育指導の指針』2017 千葉県教育委員会

中央教育審議会

『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)』2011

『道徳教育推進のための基本的な方針』2016 千葉県教育委員会

『千葉県における道徳教育に関する取組について』

2013 千葉県教育委員会

文部科学省『生徒指導提要』2010

『平成29年度 生徒指導の充実のために』2017 千葉県教育委員会

文部科学省『いじめ防止対策推進法』2013

中央教育審議会

『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』2016

文部科学省『教職課程コアカリキュラム作成の背景と考え方(案)』

『各事項に係るコアカリキュラム(案)』2017

(2017.8.17 受稿, 2017.9.20 受理)

[抄 録]

特別活動は、「生きる力」の育成に大きく貢献するものである。そして、生徒にとって、有意義な時間にしなくてはならない。新学習指導要領では、特別活動の存在感が増していくと考える。今後もすべての教育現場において特別活動が効果的に展開され、生徒の成長はもちろんのこと、教師も特別活動の指導を通じて、成長していくことを切望する。

本稿では、まず生きる力の育成と特別活動の密接な関連に言及した。さらに特別活動と公民科・総合的な学習の時間・生徒指導・道徳との関連をとりあげた。それぞれが効果的に関連し、相乗効果が期待できることを明示した。

次に、高校教育現場での経験を生かして、個人的に発信していた資料を活用して、特別活動や総合的な学習の時間等の現況を示した。資料は写真付きで、より理解しやすいものとなっている。ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事について、高等学校学習指導要領における目標にある「望ましい人間関係」、「集団」、「よりよい学校生活づくり」、「自主的、実践的な態度」等を踏まえつつ、生徒の活動の一端を見ていただきたい。

さらに特別活動に係る学生のアンケートを紹介した。学生の真摯で、個性ある回答に「今後の成長」を大きく期待するものである。特別活動の指導は、本来、全ての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである。教員養成段階で、学生に特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指導方法等の本質をしっかりと身に付けさせなくてはならない。

次期学習指導要領への展望にも若干触れた。育成を目指す資質・能力の視点として、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が重要なキーワードとなってくる。

本稿を見ることにより、とりわけ教職を目指す人、そして教育現場で特別活動の指導に当たっている教師が、特別活動の存在意義を再認識し、積極的に取り組んでくれたら幸いである。